

第6学年 体育科学習指導案（小学校例）

平成〇〇年△△月□□日 ◇曜日 ▽校時
第6学年 △組（男子〇〇名、女子△△名）
指導者 ○ ○ ○ ○

1 単元名 ボール運動（ネット型：ソフトバレーボール）

※「領域」「型：種目」または「種目」を記載する。

2 単元の目標（第5学年及び第6学年の2学年分） *（ ）は第5学年で取り上げた内容

- (1) 運動の楽しさや喜びに触れ、その技能を身に付けることができるようにする。 (技能)
- ・ ネット型では、簡易化されたゲームで、チームの連係による攻撃や守備によって、攻防をすることができるようにする。
- (2) ネット型の運動に進んで取り組み、ルールを守り助け合って運動したり、（場や用具の安全に気を配ったり）することができるようにする。 (態度)
- (3) (ルールを工夫したり、) 自分のチームの特徴に応じた作戦をたてたりすることができるようにする。 (思考・判断)

※学習指導要領を踏まえ、本単元で生徒に身に付けさせたい力を明確にする。
※単元の評価規準との整合を図る。
※「学習指導要領の内容」から語尾を「～できるようにする」に変えて記載する。
※技能、態度、思考・判断の順で表示する。

3 運動の一般的特性(例)

ゲームは、勝敗を競い合う運動をしたいという欲求から成立した運動であり、主として集団対集団で競い合い、仲間と力を合わせて競争することに楽しさや喜びを味わうことができる運動である。

ネット型ゲームは、ネットで区切られたコートの中で攻防を組み立て、一定の得点に早く達することを競い合うことを課題としたゲームである。

このゲームにおける技能として、「ボール操作」は、サービス・パス・返球など攻防のためにボールを制御する技能である。「ボールを持たないときの動き」は、空間・ボールの落下点に移動するなど、ボール操作にいたるための動きや守備にかかわる動きに関する技能である。

その領域や内容の運動の特性を明記する。

(学習指導要領解説 P17・18・74参考)

4 児童の実態

(1) 運動に触れる楽しさの体験状況

児童のこれまでの運動経験や日常的な運動活動について、この単元にかかわる内容を明記する。

(2) 態度、思考・判断に関する学習体験状況

これまでの体育学習において、「態度、思考・判断」の内容はどのような指導が行われ、学習を進めるに当たって必要な力がどの程度身に付いているかを明記する。

(3) 技能（運動）の習得状況

これまでの体験において「技能」（運動）の内容はどの程度身に付いているのか。また、体験にかかわる具体的な人数等を明記する。（体育学習、少年団活動等）

※ 2学年毎に指導内容が示されているので、当該学年の前後の系統性も踏まえた記述を加える。
(第6学年であれば、第5学年や今年度の指導及び習得状況を記述する。)

(4) 体力の状況

新体力テストのデータから単元とかかわる体力や学校として伸ばしたい体力の状況について明記する。

(5) 児童の運動に対する思いや願い

この単元を学習するに当たって、児童がどんな力（動き）を身に付けたいと思っているのかを明記する。

5 学習を進めるに当たって

上記の児童の実態から、教師がどのような内容に力点を置き指導していくかを具体的に明記する。その際に、単元の目標を具現化するための教師の意図的・計画的な指導が明記されなければならない。また、体力向上に向けた具体的な取組についても明記する。

「単元の評価規準」については、「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校体育】」平成23年11月<国立教育政策研究所 教育課程研究センター 作成>のP37の評価規準の設定例（ボール運動系はP37）をそのまま転記する。「学習活動に即した評価規準」については、学校の実態に応じて、より具体的な評価場面を記載する。

「運動への関心・意欲・態度」、
「運動についての思考・判断」、
「運動についての知識、理解」については、ゴール型、ベースボール型の学習と共通で2年間に分けて指導するようにあらかじめ設定する。

※「関心、意欲、態度」「思考・判断」「技能」の順で表示する。
※「●」は当該学年、「・」は当該学年以外を表示する。

「運動の技能」については、学習指導要領解説の例示を参考に、具体的な動きの例を第1学年と第2学年に分けて取り上げる。

6 単元の評価規準

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ● 集団対集団で競い合う楽しさや喜びに触れることができるよう、ボール運動に進んで取り組もうとしている。 ● ルールやマナーを守り、友達と助け合って練習やゲームをしようとしている。 ・ 用具の準備や片付けで、分担された役割を果たそうとしている。 ・ 運動をする場を整備したり、用具の安全を保持したりすることに気を配ろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ネット型のゲームの行い方を知るとともに、簡易化されたゲームを行うためのルールを選んでいる。 ● チームの特徴に応じた攻め方を知るとともに、自分のチームの特徴に合った作戦を立てている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 簡易化されたゲームでチームの係による攻撃や守備をするための動きができる。
学習活動に即した評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ① 集団対集団で競い合う楽しさや喜びに触れることができるよう、ボール運動に進んで取り組もうとしている。 ② 活動の中で、ルールやマナーを守り、友達と助け合って練習やゲームをしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ① チームの特徴に応じたソフトバレーボールの攻め方を知っている。 ② 自分のチームの特徴に合った作戦を立てている。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 味方が受けやすいようにボールをつなぐことができる。 ② 相手コートにボールを打ち返すことができる。

※学習活動に即した評価規準については、単元の評価規準をより具体化した内容を表記する。
(各学校で学校や生徒の実態等を加えて作成)

7 単元の指導と評価の計画

段階	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	評価規準		
			関 意 態	思 ・ 判	技 能
はじめ 2	<p>オリエンテーションを含め、この単元の学習計画を作成する。また、中学校や前年度の復習を行い、実態を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動の行い方の理解 ・学習のねらいの確認 ・学習の進め方や学習カードの使い方の確認 ・チーム編成 等 	<p>学習計画を作成するために必要な指導を明記する。特に、本單元における学習内容、課題設定の仕方・課題解決に向けた練習方法の工夫等については十分指導が必要である。</p>			
なか か 3 く 6	<p>〈ねらいⅠ〉 身に付けさせたい指導内容や具体的な「ゲームの様相」等を明記する。</p> <p>ねらいⅠを実現するための学習内容及び学習活動について明記する。</p> <p>学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動に即した評価規準との整合を図る。 	<p>ねらいの実現に向けた学習が行われているか評価し、一斉指導や個別指導等において予想される留意点を明記する。</p>			②
	<p>〈ねらいⅡ〉 身に付けさせたい指導内容や具体的な「ゲームの様相」等を明記する。</p> <p>ねらいⅡを実現するための学習内容及び学習活動について明記する。</p> <p>学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動に即した評価規準との整合を図る。 	<p>ねらいの実現に向けた学習が行われているか評価し、一斉指導や個別指導等において予想される留意点を明記する。</p>		①	
			②		
					①
本時 7				②	
まとめ 8	<p>本単元の学習によってどんな力が身に付いたかを具体的に確認できる学習内容及び学習活動を明記する。</p>	<p>本単元の学習によってどんな力が身に付いたかを児童自身が具体的に評価するための留意点を明記する。</p>	①		

※ 児童の実態に応じて、どのような段階で意図的・計画的に指導していけば、単元の目標を実現することができるかを予測したものにならない。また、「学習を進めるに当たって」の中で記述した体力向上の内容についても位置付ける。

□ 「評価機会」等設定の留意点(効果的・効率的評価)

- ・ 1時間の授業で評価項目は1つか2つ
- ・ 観察評価は、原則として1時間に1観点

評価の観点	評価時期	主な評価方法
運動への関心・意欲・態度	指導日の後、一定期間	観察・学習ノート
運動についての思考・判断	指導した日	学習ノート・発言・定期考査
運動の技能	指導日の後、一定期間	観察・学習ノート

※ 学習活動に即した評価規準との整合性を図り、語尾は「できるようにする」に変更し、(1) 本時の目標を記載する。また、(2) 本時の評価項目についても記載する。

8 本時の学習 (7 / 8 時間)

(1) 本時の目標

- 自分のチームの特徴に合った作戦を立てることができるようにする。

(思考・判断)

(2) 本時の評価項目

- 自分のチームの特徴に合った作戦を立てている。(思考・判断②)

9 指導過程 (例)

段階	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	○：評価項目 【Aの例】 (評価方法)	「努力を要する」状況と判断される 生徒の手立ての手立て
はじめ	<p>本時の目標を実現するために、どのような学習内容や学習活動を仕組んでいくのかを具体的に明記する。 学習活動に即した評価規準との整合を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 集合、整列、挨拶、健康観察 2 本時の学習内容と課題の確認 	<p>本時の目標を実現するために、どのような指導を行うかを具体的に明記する。 学習内容や学習活動に応じた留意点を明記する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習カードをもとに本時の学習内容と課題を確認させ、学習意欲をもたせる。 	<p>本時の評価項目に対して、具体的にどのような姿を評価するのか、またどんな方法で評価するのかを具体的に明記する。</p>	<p>評価の視点で「C」と判断しなければならない生徒が出てきた時の具体的な手だてを明記する。</p>
なか	<p>学習内容の明記</p> <ol style="list-style-type: none"> 3 ボールを使った準備運動や動きを高めるためのウォーミングアップを行う。 4 簡易化されたゲームをする。(ゲーム①) 5 ゲーム①を振り返って作戦を立てる。 6 作戦に基づいた練習をする。 7 簡易化されたゲームをする。(ゲーム②) 8 ゲーム②を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仲間が捕りやすいところを意識したパスゲーム等、児童の課題に応じて設定する。 ・ よい動きに気付けるように、望ましい動きを称賛する。 ・ 作戦ボードを使用し動きをイメージできるようにする。 ・ 作戦を生かすためにどのような動きをすれば良いかを確認しながら行うよう助言する。 ・ 作戦が成功したときの動きとうまくいかなかったときの動きの原因について確認する。 	<p>【Aの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 自分のチームの特徴に合った作戦を考えたり、伝え合ったりしている。(観察) ◎ 相手チームの動きを予想して、チームの攻め方を考えている。(学習カード) 	<p>ゲームの内容を作戦ボードやデータを用いて確認させ、どのような動きをすればよいかを確認しながら作戦を立てるように助言する。</p>
まとめ	<ol style="list-style-type: none"> 9 整理運動をする。 10 本時の反省、次時の確認 11 整列、片付け等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題が達成されたか確認させ、次時の課題を的確に設定させる。等 	<p>学習カードの中に、その時間の評価項目に関する内容を準備しておく。できれば、本時のねらいに合わせて、毎時間学習カードが工夫されていることが望ましい。</p>	

※本時の目標と評価項目の整合を図らなければ、意図的・計画的な学習とはいえない。また、体力向上についても、「学習を進めるに当たって」「単元の学習計画」との整合を図りながら明記する。